

日本文化と農耕の起源

～三内丸山遺跡にみる縄文農耕の可能性～



とき

2006年7月16日[日] 13時00分▷17時00分

ところ

弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホール

入場無料

共催 ■ 総合地球環境学研究所, 弘前大学農学生命科学部
後援 ■ 青森県農林水産部, 青森県教育委員会,
弘前大学農学生命科学部地域支援事業



シンポジウムの目的

三内丸山遺跡は現在の青森市郊外において、およそ5500年前から4000年前にかけて栄えた拠点集落として知られています。一方、遺跡の出土品の多さや種類においても驚かされること有名です。DNA考古学的手法によって報告されたクリの遺伝的均一性は管理栽培による初期農耕の原型を予感されるものでした。一方、重要文化財ともなった縄文ポシエットの存在など成熟した文化を持っていたことも知られています。三内丸山遺跡からの出土する遺物に加えて、近年まで狩猟採集を行っていたアメリカ先住民の文化や、同じ北方圏でみられた中国興隆溝遺跡の栽培植物の痕跡、古代文明として名高いインダス文明ハラッパ遺跡などにみられる植物遺物（古代種子）の示すもの、これらのデータは、今後、初期の農耕文化や人の生活を支えて高度の文明を築くのに支えとなった外部環境などを明らかにするために役立つことでしょう。

なお、弘前大学農学生命科学部においては各種研究分野での地域支援を促進する事業を行っており、このシンポジウムもその公開事業の一環として開催します。さらに、大学共同利用機関法人人間文化研究機構・総合地球環境学研究所においては人間活動の環境への影響として、“社会的、生態的そして地球環境問題としての遺伝資源の喪失”というプロジェクトが進行しています。そのプロジェクトとの共催として、縄文農耕とそれをとりまく環境についても焦点をあてています。（石川）

公開シンポジウム

1部:女性研究者が語る縄文文化

2部:縄文農耕の可能性

—6000年の環境変化と農耕起源

【1部パネラー】

カリフォルニア大学バークレー校

準教授 羽生 淳子

青森県教育庁 三内丸山遺跡対策室

文化財保護主幹 中村 美杉

司会:総合地球環境学研究所 教授 佐藤 洋一郎

【2部パネラー】

ワシントン州立大学, バンクーバー校

準教授 Steven A. Weber

江蘇省農業科学院糧食作物研究所

教授 湯 陵華

中国社会科学院考古学研究所

副所長 王 巍

青森県教育庁三内丸山遺跡対策

室長 岡田 康博

総合地球環境学研究所

教授 佐藤 洋一郎

司会:弘前大学農学生命科学部

助教授 石川 隆二

